

第 22 回 CT サミット参加報告

札幌医科大学附属病院 平野 透

7月14日(土)に北九州市に於いて第22回CTサミットが開催されました。今回のCTサミットのテーマは「Trends of CT Technology～未来へ繋ぐCT技術」、今様々な研究や臨床応用が行なわれている中、未来へ向かって今までの技術を整理し新たなステージへ進んでいくことを主題に会が行われました。午前中は画質評価、線量評価そして造影検査技術、その後ランチョン、ポスター発表や機器展示、更に基調講演、特別講演、シンポジウムと午前10時から午後7時までの丸々CT漬けの1日でありました。今回のCTサミットのメインとも言えるシンポジウムでは「未来へ繋ぐDual Energy CT技術」というテーマで現在Dual Energy撮影が可能な5種類(Fast KV switching, Dual source, Spilt filter, Spectral detector, Dual Spin)のCT装置に関して、それぞれのユーザーがDual Energyによる臨床応用や個々の装置の特徴などを報告されていました。また5施設において共通のDual Energy評価用ファントムを用いて各エネルギー領域のヨードにおけるCT値の直線性など、それぞれタイプの異なるCT装置でのDual Energy処理における特徴を聞くことができ、Dual Energy撮影における装置による違い等を理解でき、とても良いシンポジウムだったと思っています。それぞれのCT装置におけるDual Energy処理の詳細はインナービジョンに掲載されます(おそらく10月号)ので、そちらをご覧ください。また特別講演の岐阜大学医学部附属病院 放射線科の五島 聡先生からは肝臓領域を中心とした通常の120kV撮影における造影理論、そして低管電圧撮影、Dual Energy撮影における病変の描出能や造影剤減量に関する内容の講演をして頂きました。肝臓領域時に肝臓癌や転移性肝がんにおいては低管電圧撮影、Dual Energy撮影で造影剤の増量をしても病変の検出能が上がらないこと等、科学的な根拠を基に報告されていました。またMRIのEOB検査とDual Energy撮影との位置付けに関しても述べられており、今までの知識の整理と、目から鱗の情報収集となりました。五島先生の内容もインナービジョンに掲載される

と思いますので、ぜひ一読して頂きたいと思います。

今回の CT サミットへの参加者は 595 名で昨年の広島開催より 250 名以上多くの参加者があり、今回のプログラム内容、そして現地の実行委員のおもてなしのお陰だと思っています。前回 8 年目に福岡で開催した時がサミット史上最大動員 800 名以上の参加者があり、何故か九州で開催すると多くの参加者が来ます。食べ物は美味しいですし、観光箇所も多いのも要因かもしれません(そう言っている私も秋芳洞、下関観光してきました)。サミット参加して 1 日しっかり勉強して、あとはグルメ・観光を楽しむのもありだと思います。

CT サミットはいつも内容の濃い熱い研究会ではありますが、季節柄会場の外もとても暑い 1 日で、おそらく気温 35℃くらいあったのではないかと思います。来年は愛知県での開催、また会場も外も熱い 1 日になると思います。CT サミットはとても楽しいです。来年参加してはどうでしょうか？



会場の北九州国際会議場、、、とても立派な会場でした
さらに会場はほぼ満席の状態でした。



札幌医大の原田耕平氏による肝臓の手術シミュレーションに必要な造影方法や臨床的なお話がありました。相変わらず上手なプレゼンテーション。さらに自身が執筆した本の紹介など抜かりない場面も！